

市民の声

～行方市によせる想い～



市村 芳郎
(成田)

最近の混迷する社会、政治経済等の情勢には不安が高まる。特に削減される地方財源の中ではどうして緊縮型の予算編成が強いられる。行政と議会とが協力して市政運営に頑張

って欲しい。分庁舎の中で市民へのサービスに努力されている職員の方々に感謝している一人です。
多少の不便は我慢して、財源難を市民一丸となって乗り切ることも大切と思う。懸念されるのは、採算に関係なく実施しなくてはならない一面が行政にはある。がしかし、目先の事だけでなく将来の財政負担を視野に入れて十分議論されることである。

児童生徒の減少に伴っての教育効果と校舎の老朽化、耐震性等の管理を念頭においた統廃合は急を要する。
市商工会等が計画実施している農産物や加工品等の直売について、議会の中で本腰を入れ、近郊にある行方市の宣伝に力を入れて欲しい。
行方市に住んで良かったと自信を持って語れる行方市に、子どもたちの将来のため、市民誰もが願いを抱えている。



平野 安子
(羽生)

「健康で豊かな生活をするための学習をしよう」と、昭和47年に玉造生活大学が設立されて以来、先輩の方々の思いをつなぎ、現在、桜井会長のもとで30名の会員が頑張っております。

その仕事の一部をご紹介しますと、『牛乳パックも捨てればゴミ・回収すれば資源』をモットーに、リサイクル活動をしています。牛乳パックで色々な小物や子供たちの遊具等を作ったり、また、古くなったネクタイや布の端切れでブローチ作りと工夫を凝らしています。
小学校や幼稚園からの希望があれば、ボランティアで「出前講座」も実施しておりますので、是非ご利用ください。

「レジ袋の削減のため、マイバックを使用しましょう」という呼びかけも会員だけの働きでは範囲が限られています。それには大勢の人たちの協力が欲しいのです。
行方市の仕事として環境問題のイベント等がありましたら、是非参加させていただき、多くの人たちとの交流の場を作ってほしいと願っております。



横山 吉一
(青沼)

私は、行方市青沼で精肉店を経営しております。

日頃は皆様方に大変お世話になっております。まして、繁盛いたしています。ですが、今私が一番心配いたしているのは、少子高齢化社会で人口が減って

いるということです。
今後どうしたらよいか、私の考えですが、市が企画をして若い人の集う場所を作ってあげたらどうかと思います。
たとえば、屋外ミニコンサートとか、水の都霞ヶ浦、北浦湖岸を利用したの歩く会等、色々あると思います。
とにかく、出会い、ふれあいがなくては結婚には結びつかないと思います。

今後の行方市のためにもよろしくお願いいたします。
最後に、行方市の益々の御発展をお祈り申し上げます。

議会では、議会や市に対する要望、意見、あるいは「議会だより」を読んでの感想などをお待ちしています。住所・氏名・電話番号を明記のうえ、議会事務局まで。

編集後記

市議会議員選挙で議員定数24人なり、早いもので1年が経ちました。この間、議会の運営にも改革がありました。



今回の定例会は平成20年度予算が主な議案ですが、その審査方法について予算特別委員会を設置しました。そして、委員会を2つの分科会に分け、予算審査項目も分科会所管で2つに分け審査を行いました。審査時間も以前より十分とって慎重に審査し全議案を可決しました。

平成20年度予算を速やかに効率よく執行していただきたいと願う中、早速、新規事業の幹線型コミュニティバスの運行が4月1日から始まりました。これから、本格的に20年度事業が執行されていくことと思います。

また、議員の一般質問や質疑も活発になってきたと思っています。議会だよりでは議員の熱意や議場の雰囲気伝えることは大変難しいものがあります。是非、議会でのやり取りを傍聴していただきたいと思います。議会を身近なものに感じられることでしょうか。心よりお待ちしております。(岡田晴雄)

広報委員会

委員長 宮内 正
副委員長 高木 正
委員 松兼 幸蔵 岡田 晴雄
高橋 正信 横田 太一